

〔3〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

行基菩薩^{*}、まだ若くおはしける時、智光法師に論議に会ひ給ひけるを、智光少し驕慢の心にやありけん、若き敵に会ひたりと思へる気色なりければ、歌を詠みかけられける。

真福田^{まふくだ}が修行に出でし片袴^{*}我こそ縫ひしかその片袴^a

かく言はれて、「二生の人にこそおはしけれ^b」と帰伏しにけり。

この事は、行基菩薩の前の身¹に、大和の国なりける長者とぞ言ひけれど、国の大領などいふものにやありけん、その家の娘のいみじく²かしづきけるが、容貌^{かたち}などいとをかしかりけるを、門守する女のありけるが、子に真福田といふ童ありけり。十七、八ばかりなりけるが、その家の娘をほのかに見て、人知れず病になりて、死ぬ^cべくなりける時に、母の女その由^{よし}を問ひ聞きて、「我が子生きて給ひてんや」と洩らし言ひたりければ、娘「大方は安かるべきやうなる事なれど、無下^{むげ}にその童さまにては、さすがなりぬべし³。さるべからん寺に行きて、法師になりて、学問よくして、才ある僧^{ざう}になりて来たらん時逢はん」と言はせたりければ、かくと聞きて、急ぎ出で立ちける。「童の着るべかりける袴持て来。我縫ひて取らせん」と言ひければ、母の女喜びながら、忍びて⁴参らせたりけるを、片袴をなん縫ひて取らせたりける。さて、寺^{くわ}に行きて、

〔出典〕

『古来風体抄』

〔重要語句〕

- おはす
- 気色
- いみじ
- かしづく
- 容貌^{かたち}
- いと
- をかし
- 由
- 安し
- 無下に
- さすがなり
- 才
- かく
- 忍ぶ
- 参らす
- あさまし
- めでたし
- 覚ゆ

師につきて学問を夜昼しければ、一、三年ばかりに、殊ことの外の智者ほがになりにけり。さて後、来こたりければ、「今宵」と言ひて逢ひたりける程に、この娘、俄にはかに消え入るやうにて亡くなりけり。法師、あさましく悲しく覚えて、寺に帰りて、道心深く起こしていよいよ尊くなりけり。されど、我が童名「真福田」といふこと、僧の中には、さしも二知らせざりけるを、年経て、行基といふ若き智者の出で来たりけるに、論議に会ひたる程に、その昔名をかく言ひて、「我こそ縫ひしかその片袴」と言ひけるに、思ホひ続ホくれば、「我もと道心を起こし始めし女は、即ち、この行基にこそおはしけれど、我が身を尊き僧になさんとて、しばし仮にかの女と生まれて見えたりける」と心得るに、尊5く、めでたくも、恥も覚ゆるなり。善智識はまことに大の因縁なるものなり。

〔『古来風体抄』〕

(注) *行基菩薩——奈良時代の高僧。菩薩は尊号。

*智光法師——奈良の元興寺の僧。

*論議——法会などで経文の要義を問答したり、論争したりする儀式。

*片袴——僧、山伏などのはく短い袴。

*大領——律令制の郡の長官。